

くどう市長と語ろう！ 第7回ふれあいトーク



日 時 平成25年2月16日（土） 17：00～

場 所 宗谷岬町内会館（宗谷岬）

《第7回ふれあいトーク 開催結果》

●参加者数 15名 (男女別) 男性13名 女性2名

【トークの内容】

1. 一次産業（漁業）に関する市長の考えについて
2. 漁港の結氷による影響（出入港等）への市の対策（1の関連質問）
3. 小学校の避難所としての機能・設備強化の予定
4. 第一避難所の整備と避難所が無い地域における確保について(3の関連質問)
5. 防災FMラジオに関する難聴地区の整備対策について（3の関連質問）
6. 市立病院に入院した際の部屋の状況と職員対応について
7. ふれあいトークの実施回数増について
8. 稚内市の活性化策について（イベントサポート、観光マイスター、地域振興券、下の句カルタの普及）（7の関連質問）
9. 宗谷岬地区の憩いの場を増やしてほしい。
10. 宗谷中の子どもたちの状況及び教育活動への支援に対する市へのお礼、
産業教育への支援継続のお願い

※参加されたみなさんより出されました上記のご意見・ご質問と、それに対する市長の発言（回答）を要約し掲載しております。内容によって、終了後に担当課において検討した結果及び付記事項等を合わせて掲載いたしました。

1. 一次産業（漁業）に関する市長の考えについて

◆参加者からの意見等

（質問）

○稚内の中心産業は漁業。稚内は一次産業が活発で栄えないとダメだと思う。市長の考え方を聴きたい。

◆市長の発言

○漁業はこの街の歴史を考えると、特筆すべき産業。いろいろな取組をする中で、行政が関わって一番大事なのは基盤整備だと思う。地方港湾（宗谷港）で言えば国の整備事業に対する予算がつき、市も負担金として予算を組んでいる。ここで一緒にお金を投じていって、しっかりとした生産を進めていただく。金額も大きく、水産業、酪農の基盤整備の中心になるのは国や道が直接の中心であり、私たちの予算が関わっている所が、非常に見えづらいが、しっかり基盤産業を振興させなくてはならないという気持ちは同じ。観光業・建設業などにお金が出ていっているように見えるかもしれないが、決してそうではなく観光などは市の予算で、（国立・道立を除き）公共施設の建設などは市が起債するなど、基本的にそういう事業は市町村が行う話。市の予算規模で考えると一次産業は疎かにしてはいない。大事な基幹産業であることはみんな共通の認識。ご理解いただきたい。

■ 検討状況など 【担当 … 建設産業部・水産商工課】

○宗谷地区の水産業への支援としては、宗谷港の整備として、国の予算や市の予算を使いながら整備してきました。平成24年度から平成25年度にかけては、国予算で宗谷港防波堤改良事業や、宗谷港物揚場整備事業を行ってまいります。ホタテ加工処理施設新築事業では、国の「強い水産業づくり交付金」を宗谷漁組に支出します。また、ふるさと財団の「ふるさと融資」制度により、宗谷漁組に対して、無利子で融資を行っています。総トン数20ト未満の漁船の建造・取得・改造に必要な資金、漁具や、漁業用資材保管倉庫、水産物処理・保蔵・加工施設等に必要な資金を、「稚内市漁業近代化資金利子補給規則」により、長期かつ低利の施設資金等の利子補給を行っており、また、平成24年4月の爆弾低気圧の影響で、ホタテ稚貝養殖施設の再整備にあたっては国・道・市から交付金や補助金を入れました。今後ナマコの人工種苗の量産化に向けた中間育成や、種苗の漁場放流に向けた技術全般の研究開発の補助も行っていきます。

2. 漁港の結氷による影響（出入港等）への市の対策について

◆参加者からの意見等

（質問）

- 冬期間港が結氷すると海明け（船おろし）に影響が出る。個人や漁組で対応できない問題。これは災害ではないか？市でなんとかできないか？海明けが遅れ出漁が遅れば漁業者だけでなく水産加工業者も原料が入って来ない。

◆市長の発言

- （会場に来る途中も）海明けしてから氷が来ることが無ければよいなと思っていた。これまでもなんらかの手立てはしているはずだが、災害が起きた時に我々の対応できるものはすぐするが、（金額的にも）対応できる規模でないものがほとんど。災害にも基準があって、指定されると国や道からお金が入るが、基準に合致しないものも多い。そうすると（特定の）この街だけ、この地域だけという話になり、辛く厳しい話になる。ただ、地域の事だから知らないというつもりはない。どんな状況になるかわからないが相談しながら対応していきたい。

■ 検討状況など 【担当 … 建設産業部・港湾課】

- 結氷、流氷の対策については、その年の天候状況等の影響が大きいことから、漁港等の状況を把握し、漁組等と協議を行いながら対応を行っていきます。
- 今後の事前対策として、対策協議会等の設置・関連業者等への協力要請など、いろいろな側面からの対応を検討していきます。また、宗谷港以外の漁港については北海道が管理者となることから、対策に向けた協議等を進めていきます。

3. 小学校の避難所としての機能・設備強化の予定について

◆参加者からの意見等

(質問)

- 大岬小学校が避難所に指定されているが、避難が必要な状況になってもポータブルストーブ、発電機、備蓄食料等がなく、避難所として機能しない。そのような設備が付く予定があるか？

◆市長の発言

(市長)

- 災害に強いまちづくりの話が普段からしているが、避難所や備蓄に関して財源の問題もありスムーズに展開できていない。災害は夜起こるかもしれないし冬起こるかもしれないという指摘をいただいているが、これを疎かにするつもりは全くない。次週(2月22日)、市の施設で暖房や食料などいろいろなことを想定した避難所体験を実施する。そういうのも参考にしながら徐々に整備をしていきたいと思っている。

(防災安全課長)

- 津波災害を第一に考え、大津波が来た場合5千人が被災する想定で7千人くらいの備蓄目標を持っている。毛布も1千弱程度しかないので必要最低限の部分を数年かけて揃えたい。避難所体験の実施後ストーブの問題など備蓄の考え方に反映させていきたい。

4. 第一避難所の整備と避難所が無い地域における確保について

◆参加者からの意見等

(質問)

○一時避難場所は宗谷岬公園の他特に富磯などはない。夏場は裏山などに避難するよう訓練しているが冬場は登れない。一時避難場所を確保するよう工夫してほしい。

◆市長の発言

(市長)

○テレビなどで避難の高台やタワーを見るが、大きい金額がかかる。国がいろんなことを取り組もうとしている。金額も大きいので、国の補助を受けながらというものも探し切れていない部分もある。ああいう地形ということは皆知っていることだし、何とかしなくてはと思っている。もう少しいろいろ検討させてほしい。

5. 防災FMラジオの難聴地区の整備対策について

◆参加者からの意見等

(質問) 緊急防災ラジオ設置の話が出たが、電波が宗谷岬から向こう(東浦)は届かない。電波をどのように通すのか？(聴けるようにするのか?)

◆市長の発言

(防災安全課長)

○これに関しては事業に取り組む前段で色々調査している部分がある。東浦を含め宗谷地域、沼川、曙など電波の届かない地区があり、状況を確定するためまずは町内会長のお宅に配らせていただき、その後地域の皆さんに配らせていただいて音が聞こえない事を捉えて、26年度に開始したいと思う。

(市長)

○状況を調査し整備した上で進めるのが本来であるが、市や放送業者だけでは機材等もなく、まず配って流してみても調べるという現状。最終的には全区域という具合に考えているが、行政面積の広い稚内では地形の問題もあり、進め方が前後し時間がかかる状況だが、しっかり取り組むのでご理解いただきたい。



6. 市立病院に入院した際の部屋の状況と職員対応について

◆参加者からの意見等

(意見)

- 数年前に特別室に入院した際に、お風呂も使えず、床と室内掃除の業者で別様の頼んでもしてもらえなかった。値段に見合った部屋ではなかった。
- 検査に向かう途中、自分が苦しんでいるのに他の職員（もしくはパート）と談笑していたりと患者さんに対し思いやりのない態度に危機感を感じた。
- 他の入院者から昔はきちんとタオルを暖かくして拭いてくれたが、今は濡れティッシュのようなもので拭かれ人情味がないという話も聞く。

◆市長の発言

- 基本的に市立病院は企業経営であり、不快な思いをさせるのはよくない話。赤字経営の中で経営をよくするためいろんな努力をしますということをしており、利用する人がどんどん言ってあげるべき。ご意見箱もある。いただいた意見はしっかり伝えたい。
- 素人なので余計なことは言えないが、患者さんもいろんな方がいて、昔していたことも、意見などを基に変えてきたこともある。言い訳するわけではないが、内部検討をした上でいろんな対応を考えているはず。いただいた意見はきちんと伝えます。

■ 検討状況など 【担当 … 市立稚内病院・庶務課】

- 特別室については、平成21年度末に整備しており、現在はご指摘のような設備面の不具合はないと考えております。また、清掃業務についても床と壁を別々の委託業者での実施はしておりません。業者へ職員の指導を随時依頼しております。
- 職員及びパート職員の待遇等についても、今後よりよくなるように引き続き研修を実施しております。
- 体を拭くタオルについては、院内での感染予防の観点から使い捨ての「ディスポタオル」を導入をしております。より安全な医療を提供するためのこととしてご理解願います。また、患者様のご希望により、申し出いただければ本人タオルでの対応も行っております。

7. ふれあいトークの実施回数増について

◆参加者からの意見等

○市長がふれあいトークを市政運営の上で生かすことは素晴らしい。今の回数では市長の思いが伝わらないのではないかと？今よりもっと回数を増やす工夫をすべき。

◆市長の発言

○今回の開催もそうだが、ふれあいトークはまちづくり委員会のテリトリーで概ね実施されている。人数も12、3人くらいが一番良いのかなと思っている。今の一年間で6回のペースなら4年間で24回になる。多いか少ないか別にして、皆様のご都合を考えると休みの日が多くなり、私も公務日程等があり調整して開催している。これは大事にしていきたいし、頂いた意見も参考にしながらできるだけ回数を重ねていきたい。



8. 稚内市の活性化策について（イベントサポート、観光マイスター、

地域振興券、下の句カルタの普及）について

◆参加者からの意見等

- 稚内市には経済の疲弊と人口の問題があるが、活性化の根本として市民の意識改革、稚内に対する誇りや喜びを感じる、住んでよかったと思えるような、市民全体でという考えが必要。1つの好例として冬イベント（みなみな祭り in 稚内氷雪の広場など）がいろんな団体がまとまって開催したことは画期的であり、夏イベントも含めて行政がフォローサポートすべきである。
- 観光マイスター制度で言えば取得を促すための受験料の軽減や、何かプレミアムをつけるなどで取得率が上がれば市民の意識も高まり稚内に対する誇りや喜びが醸成される。ひと工夫が欲しい。
- 地域商品券もプレミアムがついたが、稚内に昔から住む人もまだ存在を知らない人がいる。ふれあいトークもそうだが、案内が足りない。（行政がタッチできるかわからないが、）地域の回覧板で呼びかけるなどすれば地域振興券の意味合いも高くなるのではないかと？
- 北海道独自の下の句カルタは競技人口が激減している。集中力や礼儀作法は教育の観点からもすばらしく、底上げを図るため、町内会単位以外にも広げ、冬だけでなく夏も取り組み普及させたらどうか？

◆市長の発言

- 夏場冬場両方もっと大きいイベントに育てるとすれば合同でとか、規模を大きくしてとかという話になるが、イベントコンベンションってそれだけ大きいものはなかなかない。来年我が街は何をやるんだというのを全組織挙げて情報交換し合って、そこに民間の企画も入れればいいなとは思っている。そんな進め方をしていきたい。
- 観光マイスター制度については、受験料で浸透の度合いを分析していないが、テキストをフリーに出来ないかという問い合わせもあり、みんな興味を持っている。（マイスターを否定するものではなく）資格がなくとも稚内の街を知っているよという方が受け入れられやすいかなという感じで見ているが、幅広く稚内を知って、こちらに来られる方にいろんな事をPRできる、そういう市民を育てていきたいなという趣旨は（発言者と）同じだと思う。

（次頁へ）

◆市長の発言（続き）

○地域商品券は友好都市枕崎市の取り組みを参考に稚内商工会議所が始めたもの。私も市職員に対して同じお金を使うなら街の中で使った方がいいと言っている。一年経ち、いろんな意見の中でプレミアムもついた。我々(市)は利用者の立場で意見をしっかり伝えて、もっと普及するように行政として取り組まねばならないと考えている。

○稚内には北都カルタなどクラブがあり、大会の度に、これをとにかくなくすなよと話している。スポーツもそうだが、人口が減って子どもの数も減るといことで、いろんなところに影響が出ている。カルタ大会でも町内会参加は少なかった。受け入れられるならどんどん受け入れてほしいが、指導者自体も減っており広げられないもの現状。また下の句カルタは独特のルールがあり育成しづらい側面もある。これに関して特にこうしたいというのはないが、質問の趣旨で言うと教育か社会福祉の分野でどうとらえるかという話が必要だと思う。

9. 宗谷岬地区に憩いの場を増やしてほしい。

◆参加者からの意見等

○宗谷岬地域は後継者も多くいるが、子どもの遊ぶ場所がない、遊具などは若干あるが孫を連れて遊びに行くような憩いの場がない。また、お年寄りがパークゴルフが盛んで、てっぺンドームの公園などもコースに適している。(コースを作ってほしいことより緑がもったいないと思う。)

◆市長の発言

○ちびっこ広場などは市の計画で位置づけられており、考え方は所管に確認したい。

○パークゴルフ場は市内に何カ所もあるが維持管理費もかかる。まちづくり委員会などで議論して、それぞれが協力し合える格好に持っていければよいと思う。地域担当職員にも伝えたい。

■ 検討状況など 【担当 … 建設産業部・都市整備課、港湾課】

○平成 23 年 10 月～11 月に、稚内市に設置している、全ちびっ子広場を対象に、町内会代表の方の立ち会いのもと、現地確認を含め、ちびっ子広場に対する意見や要望の聞き取り調査を実施いたしました。

大岬広場（宗谷岬町内会館向に設置）につきましては、主に土日に子供達（特に親子連れの幼児や小学校低学年）が安心して憩える広場であり、ブランコや滑り台が多く利用されているというご回答を頂きました。

このことを踏まえ、施設規模の拡大や遊具増設などは難しい状況ではありますが、安全柵などの広場施設、特に遊具に関しましては、子供達が安全に、安心して利用して頂けるよう、適切な維持管理を行っていきます。

（都市整備課）

○てっぺンドーム公園の緑地については、宗谷港のシンボル緑地として位置づけ、災害時の地域住民の避難場所を兼ねて平成 20 年度に整備を終えております。

今後の整備・利用については、この事業が国からの補助金を受け整備を行っており、整備・利用にはある程度の制限があることから国と調整等を行いながら、数多くの方が利用していただけるよう、地域の方々の意見等を聞いて、管理者として協力をしていきたいと考えます。(港湾課)

10. 宗谷中の子どもたちの状況及び教育活動への支援に対する

市へのお礼、産業教育への支援継続のお願い

◆参加者からの意見等

○宗谷中で続いている産業教育は沿岸漁業を学び、販売体験することで地域と親、自分自身に誇りを持てる機会になっている。産業教育においても市から支援いただいていることにお礼申し上げたい。引き続き支援をお願いしたい。

◆市長の発言

○産業教育で地域と家庭に誇りを持てる、それが地域産業を守っていくといういい循環ができていると感じる。どこの地域でもこういう取り組みが進めば過疎や統廃合にも違った展開が生まれると常々思う。私たちも外から今後も見ていきたいし、地域としても流れを見守っていただければありがたいと思う。

